

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員玄関、ユニット入口に掲示している。また毎月のユニット会議で運営理念を唱和し、理念の共有に努めている。事業所の理念をもとに運営方針を作成し、職員一人一人が役割と学習目標を持ちながらケアの実践につなげている。	理念は職員入口と各ユニット入口付近に掲示している。また、毎月のユニット会議での資料の上段に運営理念を付け、職員で唱和して意識付けをしている。法人理念とグループホーム事業所としての理念を基に、年度初めに一人ひとりの学習目標を立案しチャレンジシートに記録し、管理者と面談しながら日々のケアの中で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のキッズクラブや小学校の生徒からの贈り物を受け取ったり、近所の商店へ買い物へ出かける、ボランティアの受け入れなどを実施しているが、日常的な交流まではできていない。	日常的にはボランティアの受け入れには踏み込めていないが、敬老会などでフルートやギター演奏など、ボランティアの受け入れして楽しんだ事もある。また、地域のキッズクラブや小学生・中学生からの贈り物を受け取り、飾っている。今後は贈り物持参時にお返し出来るようにユニットごとに入居者とプレゼントを作成している。	地域の小学生・中学生との交流は始まっているが、日常的なボランティアの受け入れ・交流はこれからだと期待している。あがうらコミュニティ協議会との協力体制もこれから始まろうとしているとの事なので、地域密着型施設として地域に開かれた施設になるよう期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の商店や美容院利用する時、中学校の生徒との交流時に認知症の方々の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。全ご家族様に開催案内と議事録を配布している。いただいた助言やご意見を職員と検討しながらサービス向上に努めている。他の事業所との連絡会議を実施している。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催しており、地域包括支援センター、阿賀浦コミュニティ協議会、協力施設長、他グループホーム管理者、また入居者や毎回大勢の家族も参加している。関係諸機関への案内と共に全家族に事前に議題の内容を伝え開催案内している。開催後の議事録も全家族に配布し取り組み状況など報告・意見交換しサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議の構成員となっただいている。毎回会議に参加していただき、協力関係を築いている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回交代で参加している。いろいろな相談に対応して貰ったり、以前からの入居者と知り合いで声掛けして貰い繋がりが続いており、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の身体的拘束等適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、議事録は職員へ回覧している。年2回の学習会を実施している。2023年9月より運営推進会議にて身体拘束廃止や虐待防止に関する取り組みを報告している。	法人内で身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催している。マニュアルも整備されており、同法人施設と合同開催し、情報を共有して記録に残している。施設内研修での学習会の感想の記録の仕方を工夫改善し、今後の課題としてケアにどう生かしていくか、また、学んだことを全員が提出し、管理者と職員個人で保管し学びを振り返るケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止検討委員会を3ヶ月に1回開催し、議事録は職員へ回覧している。年に1回、虐待の芽チェックリストを実施している。年2回の学習会を実施し、ケアの振り返りと不適切ケアについてのグループワークを実施している。学習会に参加できなかった職員は資料を読み、何を学んだか、ケアにどう生かしていくか、記録を残している。	虐待防止検討委員会もマニュアルが整備されており、3ヶ月毎に開催して議事録を全職員に回覧して共有している。チェックリストを使い集計結果から虐待の芽を防止している。不適切ケアやグレーゾーンになっていないかグループワークで話し合い検討している。参加できなかった職員も資料を基にケアにどう生かしていくか記録し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度利用の入居者はいないが、今後の為に積極的に研修等へ参加し、知識を深めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書と重要事項説明書の内容を入居者、家族と読み合わせをし、説明することで同意を得ている。また、区役所の手続きなどの疑問点や心配事についても確認し、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望は日々の生活の中で確認し、散歩や外出をしたり、食べたいものは行事等で取り入れ、反映させている。運営推進会議や物品の持参等でご家族が来所された際や電話、毎月のお便りで施設での様子を伝えると同時にご家族の意見や要望を伺い、ケアプランに反映させたり、法人会議で報告、検討し、運営に反映させている。投書箱を設けている。	日々の生活での会話から入居者からの要望を聴き取り支援に繋げている。事業所からの毎月のユニットごとのお便りや、居室担当者が日頃の様子を写真やコメントにして家族へ送付し関係を築いている。また、運営推進会議の開催について全家族への開催通知と意見や要望等を依頼し会議に参加して貰い活発な意見交換を行っている。受診での付き添い外出時に声掛けして意見や要望を貰うよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チャレンジシートで自己目標を立て、育成面接の場で意見や提案を聞く機会を設けている。また、ユニット会議では、毎月職員から出された議題を検討している。必要に応じて代表者を含めた法人会議等で報告し、対応を検討している。	自己目標を立案し管理者は面接で意見や要望を伺っている。ユニット会議を毎月開催し、事前に議題を職員から提案して貰い、合同開催して検討し内容に応じて法人会議等で報告・検討している。職員からはリフレッシュ休暇を希望に添って取れる事など好評を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回、労働組合の代表者と経営協議会やハラスメント委員会を開催し、勤務状況や労働時間、職場環境等について状況把握している。また、年2回の団体交渉も実施し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チャレンジシートで自己目標を立て、育成面接を実施している。また、施設内の係も分担している。法人内外の研修への積極的な参加や、外部研修案内を配布している。また外部研修の助成制度も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋葉区内ホームの会や新潟地域内での連合会内の連絡会議があり、交流やネットワークづくり、サービスの質の向上につながっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からの聞き取りや事前面談等で情報収集し、安心して生活していただけるよう職員同士で情報共有している。職員、他入居者との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、家族の不安や困りごと、要望を伺っている。入居後1～2カ月はご家族に安心していただけるよう、3～4日くらいのペースで生活の様子や食事内容等を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人、家族に施設見学やお話を聞き、また担当ケアマネージャーからの情報を得て、今までのサービス内容を踏まえたうえで、本人、家族が望む暮らしに近づけるための支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事と出来ない事をしっかりアセスメントして、自分で出来る事は自分で行っていただく、暮らしの中で役割をもって生活していただくことを大切にしている。入居者同士、職員と入居者一人一人との関係作りも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者の様子を写真付きの便りや家族に伝えている。その他、電話や受診時の付き添いや日用品の補充等で来所した際に、施設での様子や本人の困りごと等の情報を共有し、家族との関係作りをしている。	ユニット便りを毎月発行しており、写真と共に日々の生活の様子を伝えている。また「なごみ新聞」をユニットごとに3ヶ月毎に発行しており施設での様子や生き生きした表情の写真・行事の様子・職員紹介などと今後の予定や運営推進会議への参加を依頼するなど、共に本人を支えていく関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら入居前からの馴染みの医院への受診を継続している。その帰りに自宅へ寄ってくる、必要な荷物を取りに自宅へ行く、今まで関わっていたサークルへの参加、葬儀への出席など馴染みの関係が途切れないように支援している	かかりつけの医院へ定期的に家族の協力により受診外出している。自宅に寄ったり買い物や食事したりして馴染みの関係や場所への繋がりを継続している。また、今まで関わっていたサークルへの参加は、本人も楽しみにしていてサークルの方が送迎し共に本人を支えていく関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの入居者の性格や関係性を配慮して食席を決めたり、会話の仲介等を行い、入居者同士の良好なコミュニケーションが図れるようにしている。他入居者を気遣ったり、助けたりする関係性ができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中も家族や入院先の相談員と連絡を取り、状況把握を行った。次の施設入所に関しての情報提供を行うなど相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談では本人や家族の思いや意向を聞き取り、職員で情報共有している。入居後は日々の暮らしの中での会話や行動、表情などから本人の思いや意向をケアプランや暮らしに反映させている。	事前面談で日々の生活の中で大切にしている事や考え方など、本人や家族からエピソードを聞いたりしている。身体的や心身状態を含め暮らし方の希望や意向を把握し反映出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や契約時等に本人や家族から聞いた情報をフェイスシートに記入し、把握している。24時間シートを活用し、一人一人の生活リズムの把握に努めている。	入居前の事前面談では出来るだけリラックスした状態に配慮して昔のエピソードや、どうい暮らし方だったか確認している。入居希望時には施設に来て貰いながら、長い経過だと将来的な見通しなども話しながら本人が納得できるように努めている。フェイスシートや24時間シートを作成してアセスメントし把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、一人一人の現状把握に努めている。また日々の介護記録、申し送り等で現状の把握をしている。ケアプランと同様概ね6か月ごとに、または変化があった場合は適宜24時間シートの更新をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が毎月モニタリングを行っている。ケアマネジャーと居室担当者が中心となり、ケアプランを作成している。概ね6か月ごとにケアカンファレンスを開催して本人や家族の意向や思い、課題を反映させ、見直しを行っている。	本人、家族には日頃の関りの中や、カンファレンスにて思いや意向を聞き見直し課題を反映させている。個別の援助計画書にて毎月居室担当者がモニタリングを行い意見交換し、ケアマネジャーが総括し課題などを可視化してカンファレンスにて修正更新を行っている。また、要望や状態の変化が生じた場合にもモニタリングし見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、連絡ノート等で日々の様子やケアの実践を記録し、情報共有に努めている。居室担当職員は毎月モニタリングを行い、ケアカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。月に1回のユニット会議時もケアの検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院の希望や本人の状態の変化や家族のニーズに合わせて職員全体で検討し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容サークルの訪問理容サービスを利用している。また入居以前に参加していた活動の会議へ参加していただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族協力のもと、今までのかかりつけ医、薬局を継続している。受診に必要な情報については受診時に家族へ口頭や文書で伝えている。受診後の結果は記録し、職員で情報共有している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時に必要な情報は、個別に対応し口頭や文書で伝え、主治医との連携を図っている。また、受診後の結果内容は、業務日誌に記録し職員間で情報共有している。入居前のかかりつけ歯科より訪問診療をしていただくなど、かかりつけ医と関係を築きながら適切に医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は不在。訪問看護事業所との連携は行っていない。協力施設である特養医務室の看護師と随時相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と計画作成担当者が連携を図り、情報交換に努めている。また、家族との連絡や相談にも対応している。運営推進会議に協力病院の総看護師長に参加していただき、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りを行う方針を持っていない旨を本人・家族へ契約時に説明をしている。グループホームでの生活が困難となった場合は、家族の意向を確認しながら協力病院、協力施設等と連携を取りながら支援している。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所としての役割や機能を十分に伝えるとともに看取りを行う方針がない旨を本人・家族へ説明し同意を得ている。施設では看護師が不在であるが、フォーレ留置の方の施設に戻りたいの想いに寄り添い、フォーレ管理のリスク等を訪問看護や病院に相談確認している。病院外来での交換など退院後の施設での生活が継続できるよう関係機関と連携し体制を整え支援している。個々の状況や家族との関係性に加味しながら、嚥下機能の低下や立ち上がり、入浴など生活場面で対応が難しくなったとき家族の意向を確認しながら協力病院、協力施設と連携し全体で話し合い方針を共有し取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、急変時の対応学習を実施している。また、救急要請時のアクションカードやAED等はリビングに設置している。	年1回、急変時の対応学習を実施している。非常時電話連絡網をはじめ、消防署からの「緊急要請時のアクションカード」、急変時の症状別対応方法、AED等は、全職員が対応できるよう共有スペースのリビングに設置されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル、BCPを策定し、火災、水害、地震訓練は年1回開催し、どの訓練も入居者参加型で実施している。また設備の自主点検を実施している。避難生活に必要な物資の整備も行っている。	災害対策マニュアル、BCPを策定し、火災、水害、地震訓練を入居者も参加し実施している。災害時に必要な入居者の情報はすぐに持ち出せるようリュックに保管され、飲料水は3日分備蓄され賞味期限管理その他備品、物資類とともに整備保管されている。また、実際に賞味期限が近い保存食も食事時提供され、入居者より好評を得ている。本年1月地震発生時は、リビングでの全員の安全確認、防寒具や移動手段車等確保など職員が迅速に対応し運営推進会議に報告を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルに沿って入居者のケアに対応している。プライバシーに関するチェックリストを実施し、プライバシーに関する学習会を実施した。	プライバシー保護マニュアルを基本とし入居者や家族に対し、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。また、年に1度、職員全員にプライバシー保護チェックリストの記入や学習会にて、プライバシーの侵害や個人情報漏洩について、作成された問題を通し、職員間で考え話し合い、気づきとプライバシー保護の理解に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中で、本人の思いや希望を引き出す努力をしている。誕生会等の行事ではケーキの種類を選んでいただいたり、献立を決めている。職員からの一方的な声掛けにならないよう、自己決定できるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体調や精神状態を把握しながら、可能な限り本人のペースや希望を大切にしながら関わりを持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の利用サークルと契約し、訪問理髪を活用している。本人や家族の希望に合わせて散髪期間を決めている。カラー、パーマの希望がある場合は本人、家族と相談し、地域の美容室を利用している。入浴時の着替えはご自分で着たい衣類を選んでいただいている。自宅で使用していた化粧水や乳液を使用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用しているが、食事の準備や片付け等、出来る範囲で入居者と一緒に行っている。季節の食材を取り入れたり、行事食など楽しめる食事の提供を行っている。また、入居者の要望を聞きながらおやつを提供を行っている。	委託業者の食材を使用しメニューに沿って提供されている。調理や盛り付け、配膳片付けなど出来る範囲で入居者と一緒に行っている。入居者の「お寿司が食べたい」に事前に入居者の好みを伺い、職員が屋台を作り好みのネタを提供するなど食事が楽しみになるよう工夫している。また、一緒に買いも行ったおやつを提供や手作りのおやつや、入居者同士の会話から季節の果物の提供と一人ひとりの好みや力を活かしながら支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況、量を確認し、介護記録や業務日誌で共有している。月に1回、体重測定を行い、増減の観察をしている。食事量が少ない方にはご家族の協力も得ながら、好きなものを準備していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助が必要な方には適宜支援している。希望される方には歯科健診を受けていただき、治療等が必要な場合は歯科往診につながっている。協力歯科と連携し、月1回の歯科よりの助言のもと、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせた声掛けや対応を行い、必要に応じて支援をしている。変化があった場合は情報共有、ケア方法の検討を行っている。また、ご家族とも情報共有を行い、適切な排泄用品の準備をしていただいている。	入居者の生活動線に近いトイレを使用しており予め個別のパッド類が準備されている。排泄状況は手書きのチェックシートに記入され、必要に応じて声掛けや対応を行っている。自尊心に配慮し入居者の様子から声掛けを行い、身体機能に応じ歩行介助の支援をしている。情報はパソコンにて管理され、変化があった場合、情報共有し支援に活かされている。また、排泄状況を確認するために本人に協力してもらい、カレンダーに排便の記録を書いてもらい把握するなど、一人ひとり個別に支援を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の提供と、適宜果物を提供している。水分摂取が少ない方はご家族の協力も得ながら好きな飲み物を準備していただいている。1日の中で体操や歩行など体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は設定されているがその中で可能な限り、入居者の習慣や希望に沿った入浴、同性介助を行っている。安全な入浴ができるよう入居者に合わせた補助具を使用し、環境を整えている。入浴剤等を使用し、楽しめる工夫もしている。	入浴時間は設定されているが、可能な限り入居者の希望に沿った入浴支援を行っている。お楽しみ企画では、入居者より入浴剤を選んで入浴を楽しめるよう工夫をしている。また、医師から入浴時間に制限のある入居者の方に本人の気持ちに沿って説明し楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターン等を考慮し、必要に応じて日中に休息の時間を設けている。夜間の安眠につながるように、日中の活動量を増やしたり、外気浴等を行っている。眠れない方には声掛けや眠くなるまで一緒に過ごしたりと安心して眠れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後のお薬情報はその日のうちに職員で情報共有している。その後は個人ファイルにて保管し、いつでも確認できるようにしている。お薬ケースにも薬の用量を記載し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味をお聞きし、花の水やり係など毎日の生活の中で役割や楽しみを持って過ごしていただけるように支援している。また、行事や外出等でも入居者の楽しみごとを取り入れ、気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	受診時にご家族と出かけられる機会であり、受診後に自宅に寄ってきたり、必要な物品を取りに自宅へ帰ったり、外出の支援を行っている。施設周辺の散歩やドライブなど外出支援を行っている。	近隣の病院敷地に桜を見に散歩をしたり、小学校の桜をデッキから眺めたり、敷地の畑に野菜を収穫に出たりと戸外に出かけられるよう支援している。日常の入居者同士の会話から近隣の街並みを見にドライブへと普段出かけられない場所へも出かけられるよう支援に努めている。また、家族の協力を得て、受診時に自宅に立ち寄るなどの外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の商店やスーパーに行き、お菓子や調味料を購入時に職員と一緒に支払いを行っている。また、個別での外出時にも事前にお預かりしたお金から嗜好品の購入や支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にご家族に電話をかけていただいたり、ご自分の携帯電話を使用されている。年賀状は入居者本人からも書いていただき、ご家族へ送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、観葉植物を栽培している。ウッドデッキにはイスとテーブルを置いている。畑やプランターで植物や野菜を育てている。リビングの壁面には入居者と一緒に作成した季節の作品等を飾っている。	共有空間のリビングは、明るく大きな窓から外の景色を眺めることができる。ウッドデッキでは、花のプランターや畑を椅子に座りゆっくり眺め過ごす事ができる環境である。リビング壁面には、入居者と職員が一緒に作成した季節の朝顔が飾られている。浴室やトイレ、洗濯場等、明るく清潔で安全に配慮され、使いやすい物品が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士でテーブルを囲んで話をしたり、ソファーに座ってテレビや外の景色をみる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みのものなどの持参をお願いしている。本人と家族で居心地の良いレイアウトを相談して考えたり、じゅうたんを敷き、冬場はこたつを置く、テーブルやテレビを置くなど本人が心地よく過ごせる環境になるよう配慮している。	居室内は、家族の協力を得て、テレビや座椅子、家具や本、お茶道具やポット、家族写真、衣類など使い慣れた馴染みの物、生活に必要な物が持参され自由に配置されている。在宅生活同様、生活での楽しみが継続できるよう本人や職員間で話し合い支援されている。居室の掃除やシーツ交換など、職員と一緒に整え、自立した生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな表札を貼ったり、大きなカレンダーを作成したり、トイレ等の場所の説明書きを見えやすい場所へ掲示している。		